

特集

シリーズ
市町村合併



登別・幌別・鷺別の3地区で開催した『合併に関する懇談会』と、『まちづくり、まちの自立について』をテーマに鬼のたまご協議会との共催で開催した『市民フォーラム』では、市町村合併についての熱心な論議を通して、市民のみなさんから多くのご意見・ご質問をいただきました。

『シリーズ 市町村合併』の5回目となる今月号では、市町村合併について市民のみなさんからいただいた主なご意見やご質問、法定協議会設置請求の経過、市の考え方などをお知らせします。

市町村合併についての
市民のみなさんの声

市は1月から2月にかけて、登別・幌別・鷺別の3地区で『合併に関する懇談会』を開催するとともに、まちづくり団体『鬼のたまご協議会』との共催により、『まちづくり、まちの自立について』をテーマにした『市民フォーラム』を開催しました。これらの中で、市町村合併やまちづくりについて市民のみなさんからたくさんのご意見やご質問をいただきましたので、その主なものを取りまとめてご紹介しましょう。

もっと時間をかけて、
まちづくりから議論を

まちが合併をするにしても、しないにしても、まず「将来、どういうまちに住みたいのか、どういう生き方をしたいのか、自分の子どもたちにどのようなまちを残したいのか」など、まちの現状を認識するとともに、将来に向けてまちの姿を積極的に議論すべきではないでしょうか。

合併ありきの議論はおかしいと思います。まず、今暮らしているこのまちをどうするのかということを中心に議論した上で、そのためには合併した方が良いのか、次に合併する相手はどこが良いのかと

いった順に市町村合併について議論していただきたいです。

これからは、まちの合併の有無にかかわらず、行政も市民も、何かを我慢しなくては生き残ることはできないと思います。ただ、何をどこまで我慢しなければならぬのか、どこまで我慢すると登別は合併しなくてもまちが存続できるのかを知るために、ぜひ、その基礎となる数値を算出し、将来の指針を示してほしいです。

登別市が室蘭市や白老町と合併すると確かにまちが大きくなります。しかし、果たしてまちが大きいくことが私たち市民の生活にとって良いことなのでしょうか。私たちにとって住み良くなるとか、行政サービスなどが向上するといったことが重要なことではないかと思えます。

もっと広域的に市町村合併を
議論すべきではないか

『観光都市』という登別の誇れる特色を生かして、観光を基幹産業としている他市町村との広域連携や合併などを含めたまちづくりを議論すべきではないでしょうか。

登別地区はイベントの開催でも隣接する白老・虎杖浜地区の住民の協力を得ています。また、登別駅には特急が止まることから、一部の白老町住民の利用もあります。